

花街の伝統を受け継ぐ

古町芸妓

古町は、料亭・割烹の並ぶ老舗の町。新潟の芸妓は、昔から京都・祇園



柳都さんのあでやかな舞姿

と並び称せられ、今もなお全国に名をはせています。同社の田中支配人は、若い社員芸妓「柳都さん」

この道49年という、古町芸妓の世々子姐さんは、「三味線や舞、そして会話とお酌を通して、お座敷を和やかにし、お客様に楽しんでいただくのが私たちのおつとめですね」と笑顔で話します。最盛期には300人を超えた古町芸妓の数



今年の「にいがた冬の陣」トレードパーティ

は、現在32人。昭和62年には花街の伝統を受け継ぐと、市内の企業などの出資により、芸妓の養成・派遣を目的とした全国初の株式会社「柳都振興」が設立されました。

堀を介して交流を

プロジェクト実行委員会

かつて新潟のシンボルだった堀について知り、魅力あるまちづくりにつなげようと、堀割再生生物プロジェクト実行委員会が活動しています。

「春は西堀沿いの桜を愛でたり、夏は柳の下で夕涼みをしたり。堀端には人が集まっていたなあという印象が強いんですよ。堀を介して新たな交



堀跡を訪ねてまちあるき

流の輪が生まれることを期待しているんです」と会長の川上伸一さん(44)は語ります。「堀が無くなって40年になります。堀の存在が忘れられてしまう前に、信濃川や日本海の生命力を感じられる親水空間を

座を開催しており、今回は8月30日に開催する予定です。「これからの新潟を担う子どもたちと話し合ったり、堀を掘るための交通体系も考えたい」と川上さんが話すように、同会の活動はさらに広が

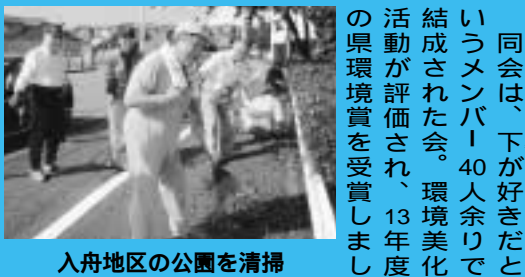


6月に行われた堀割再生考座

「今年度は、市民の皆さんに活動を提示しよう」と定期的に講

縁の下の力持ちを目指して 新潟下町をよくする会

黄色いかれんな月見草が揺れる砂浜。「新潟下町をよくする会」では、そんな風景をよみがえらせようと、月見草の一種、オオマツヨイグサを西海岸公園に植えています。



入舟地区の公園を清掃

「懐かしい風景を取り戻すため、少しでもお手伝いできるなら」と語るのは、同会会長の本間恒夫さん(65)。小針海岸



オオマツヨイグサ

新潟北部開発協議会

“よみがえれ！わが町”

昭和62年の創刊以来、16年間下町の情報を伝えている「よみがえれ！わが町」。隔月発行の手書き新聞を発行しているのは、新潟北部開発協議会です。

と佐藤さんは語ります。灯ろう流しの伝統を伝える「北部開発・川祭り」など住民同士の交流を深める行事を実施したり、地域づくりのための勉強会やアンケート調査を実施したりと、地域をよりよくしようと活動に終わりはありません。



アンケートの結果を報告

「形になりにくい地道な活動だよ。人のネットワークができてきたのが財産かな」と佐藤さんは目を輝かせていました。

新潟島を生み出した “関屋分水路”

関屋分水路は、信濃川が最も海に近づいた地点から水路を掘り、日本海へと水を流しています。西蒲原や亀田郷など、低湿地帯で洪水が多かった地区では、信濃川を河口付近で分けようとする計画が江戸時代から何度も立てられてきました。明治44



昭和47年1月の関屋分水路開削式。信濃川の水と関屋分水の水がながりました

年には「関屋堀割」が海まで掘られました。この堀は数年で埋まってしまいました。現在の「堀割町」・「関屋堀割町」の地名は、関屋堀割に由来するものです。現在の関屋分水の具体的な計画は、信濃川が運ぶ土砂から新潟港を守るために始まりまし

昭和30年代「関屋競馬場」も誕生したのです。昭和30年代「関屋競馬場」も誕生したのです。昭和30年代「関屋競馬場」も誕生したのです。

関屋競馬場の記憶



昭和31年新潟市図



関分公園の新潟競馬場跡の碑(右)と競馬場踏切(左)

まっあをくはるけきばをこまのかけしもたれにかたらむ